

エジプト学研究第 25 号 2019 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.25, 2019

目次

〈調査報告〉

エジプト ダハシュール北遺跡調査報告—第 25 次調査— …………… 吉村作治・矢澤 健・近藤二郎・柏木裕之・山崎世理愛・石崎野々花・有村元春 ……	3
第 11 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報 …………… 近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合 望・高橋寿光・米山由夏 ……	25
2018 年 太陽の船プロジェクト 活動報告 …………… 黒河内宏昌・吉村作治 ……	44

The Journal of Egyptian Studies Vol.25, 2019

CONTENTS

Field Reports

- Preliminary Report on the Excavations at Dahshur North: Twenty-Fifth season
.....Sakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Jiro KONDO, Hiroyuki KASHIWAGI,
Seria YAMAZAKI, Nonoka ISHIZAKI and Motoharu ARIMURA 3
- Preliminary Report on the Eleventh Season of the Work at al-Khokha Area
in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition
.....Jiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Takao KIKUCHI, Hiroyuki KASHIWAGI,
Nozomu KAWAI, Kazumitsu TAKAHASHI, and Yuka YONEYAMA 25
- Report of the Activity in 2018, Project of the Solar Boat
.....Hiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA 44

調査報告

第 11 次ルクソール西岸 アル＝コーカ地区調査概報

近藤 二郎*¹・吉村 作治*²・菊地 敬夫*³・柏木 裕之*³
河合 望*⁴・高橋 寿光*⁵・米山 由夏*⁶

Preliminary Report on the Eleventh Season of the Work
at al-Khokha Area in the Theban Necropolis
by the Waseda University Egyptian Expedition

Jiro Kondo*¹, Sakuji Yoshimura*², Takao Kikuchi*³, Hiroyuki Kashiwagi*³,
Nozomu Kawai*⁴, Kazumitsu Takahashi*⁵, and Yuka Yoneyama*⁶

Abstract

The team from the Institute of Egyptology at Waseda University has carried out clearance, conservation, and documentation at the tomb of Userhat, Overseer of King's Private Apartment under Amenhotep III (TT 47), and other tombs in the vicinity at Al-Khokha area in the Theban Necropolis since 2007. Although the tomb of Userhat is one of the most important private tombs from Amenhotep III's reign, no comprehensive scientific research has been undertaken because its exact location had become unknown even after Howard Carter wrote its short report in 1903.

In the previous seasons, we uncovered the entrance of the tomb of Userhat, which has the lintel and doorjambes on both sides. They were decorated with incised hieroglyphic inscriptions and the figures of the tomb owner, Userhat. We have also located the subterranean structure of the tomb through the clearance of the debris in a hole where the ceiling of the chamber has collapsed in the past. At the south side of the western rear wall of the transverse hall, we found a relief decoration which depicts Amenhotep III and Queen Tiye seated under a canopy. At the inner chamber, we found a dyad, probably of Userhat and his wife, carved in the south wall of the chamber.

We found an unfinished tomb (KHT01) to the south of the forecourt of the tomb of Userhat (TT47) in the course of our clearance. The entrance of KHT01 is hewn on the southern wall of the forecourt of TT47. It was found out that the tomb KHT01 leads to another tomb, the tomb of Khonsuemheb (KHT02) who has the title of the Chief of the Workshop and Chief Brewer of the Mut temple. We also discovered the tomb of Khonsu (KHT03), who has the title of the Royal Scribe, during our clearance at the east of the forecourt of the tomb of Userhat (TT47).

In this season, we conducted our clearance at the area above the transverse hall of tomb of Userhat (TT47),

* 1 早稲田大学文学学術院教授 / 早稲田大学エジプト学研究所所長
* 2 東日本国際大学学長 / 早稲田大学名誉教授
* 3 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授
* 4 金沢大学新学術創成研究機構准教授
* 5 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師
* 6 鶴見大学大学院文学研究科博士後期課程

* 1 Professor, Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University /
Director, Institute of Egyptology, Waseda University
* 2 President, Higashinippon International University /
Professor Emeritus, Waseda University
* 3 Visiting Professor, Institute of Egyptian Archaeology, Higashinippon
International University
* 4 Associate Professor, Institute for Frontier Science Initiative,
Kanazawa University
* 5 Visiting Lecturer, Institute of Egyptian Archaeology, Higashinippon
International University
* 6 Doctoral student, Department of Cultural Properties,
Tsurumi University

which is still covered by huge heap of debris, for the future conservation work inside the tomb. The conservation and engineering works were carried out in the unfinished tomb (KHT01) and the tomb of Khonsuemheb (KHT02) for its preservation.

Our clearance showed that the huge accumulation of limestone chips in the area above the transverse hall of tomb of Userhat (TT47) are related to the construction debris from surrounding tombs in antiquity. Clearance also revealed the limestone wall with mortar above the tomb of Userhat (TT47) and the stratigraphic observation suggests this limestone wall with mortar probably predates the tomb of Userhat (TT47). The stabilities of the unfinished tomb (KHT01) and the tomb of Khonsuemheb (KHT02) were increased by the engineering works and conservation treatments in the tombs.

1. はじめに

早稲田大学古代エジプト調査隊は、1972年1月にエジプト・アラブ共和国、ルクソール西岸のマルカタ南遺跡で発掘調査を開始し、1974年1月にコム・アル＝サマク（魚の丘）において、新王国時代第18王朝アメンヘテプ3世時代の彩色階段を発見した¹⁾。この発見を受けて、アメンヘテプ3世時代をその後の主な研究対象とし、アメンヘテプ3世の王宮であるマルカタ王宮、アメンヘテプ3世時代のルクソール西岸の岩窟墓や王家の谷・アメンヘテプ3世王墓の調査など、当該時代の研究を進めてきた²⁾。

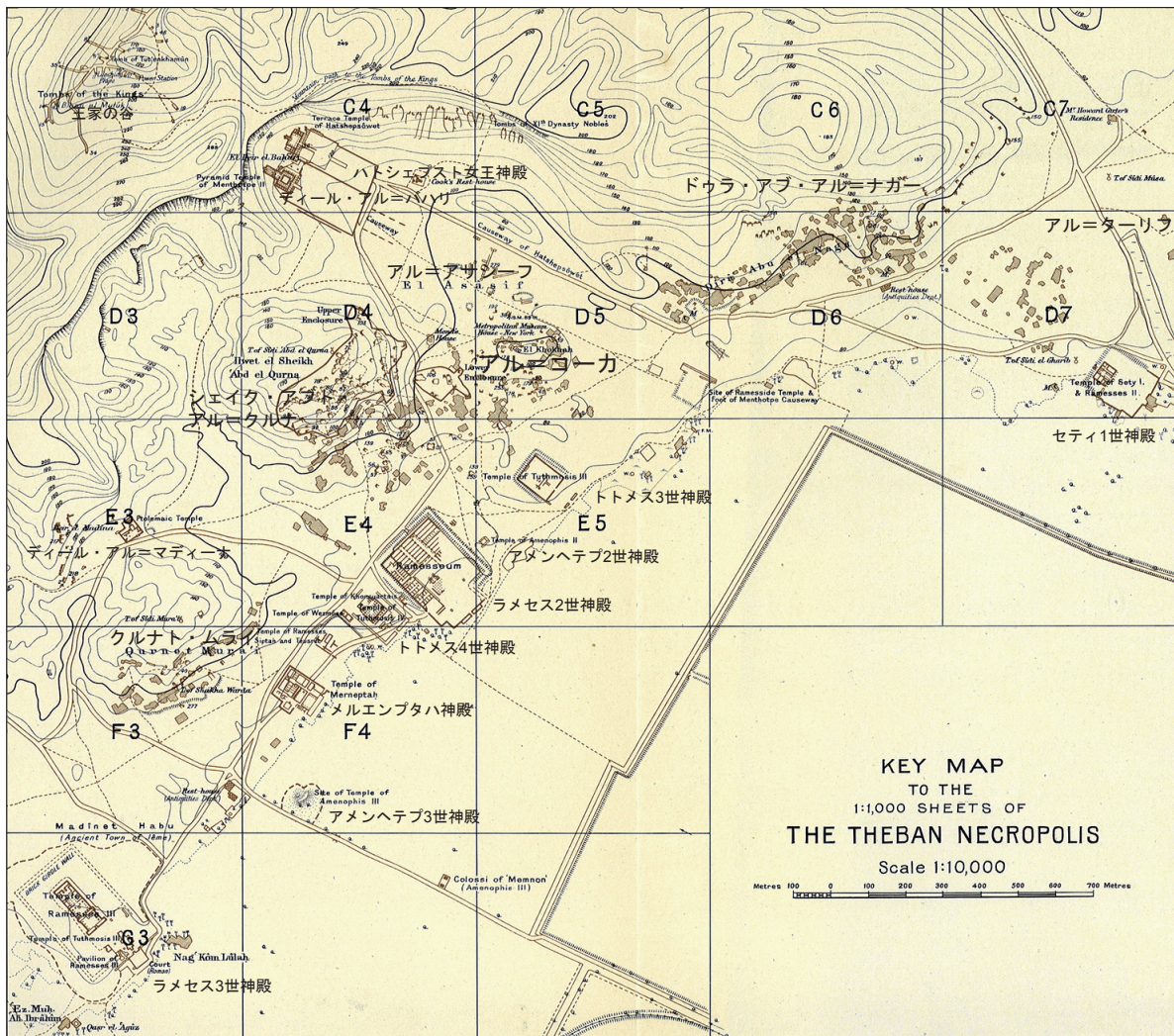


図1 ルクソール西岸地図 (Engelbach 1924: pl.II を一部改変、スケール 1:20,000)
Fig.1 Map of Theban Necropolis

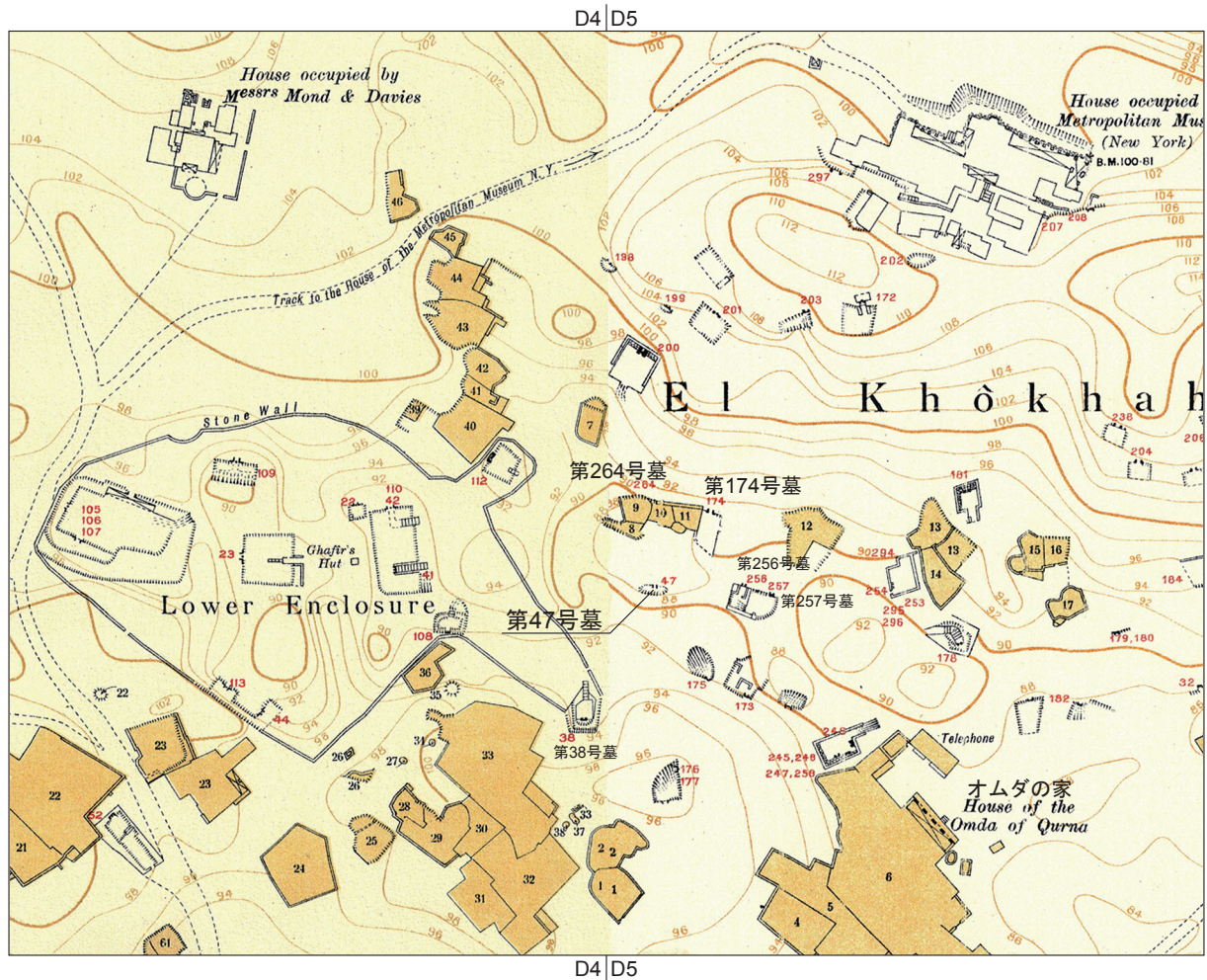


図2 アル=コーカ地区地図 (Survey of Egypt 1924: Sheet D4, D5 を一部改変、スケール 1:2,000)
Fig.2 Map of al-Khokha area

こうしたアメンヘテプ3世時代の研究の一環として、早稲田大学エジプト学研究所は、2007年度から新たにルクソール西岸、アル=コーカ地区に位置するアメンヘテプ3世時代の岩窟墓、ウセルハト墓 (TT47) を対象に調査を開始した (図1, 2)。調査の対象としたウセルハト墓は、アメンヘテプ3世の後宮 (ハーレム) の長官などを務めたウセルハトという人物の墓で、アメンヘテプ3世時代の高官墓に特徴的な、良質なレリーフ装飾と列柱を備えた大型岩窟墓の1つとして極めて重要である。本調査では、墓の構造、装飾、被葬者の称号、家族関係などを明らかにするとともに、これらの資料をもとに研究を実施し、同時代の大型岩窟墓の特質と発展を解明することを調査の目的とした³⁾。ウセルハト墓はH.A. ラインド (Rhind) やH. カーター (Carter) などの報告により、19世紀からその存在が広く知られていたものの⁴⁾、総合的な調査は行われておらず、2007年度の調査前の時点で墓は厚い堆積に覆われ、正確な位置すら不明となっていた。こうした状況を受けて早稲田大学エジプト学研究所は、2007年12月にアル=コーカ地区においてウセルハト墓の再発見・再調査を目的とした発掘調査を開始し、その後、調査を継続している。

これまでの調査により、ウセルハト墓を再発見するとともに、これまでカーターなどによって報告されていなかったウセルハト墓の詳細を明らかにすることができた (近藤他 2011; 2012; 2013; 2014; Kondo and Kawai 2017)。また、第7次調査では、ウセルハト墓の前庭部南壁から、新たに2基の岩窟墓、未装飾墓 (KHT01) とコンスウエムヘブ墓 (KHT02) を発見した (近藤他 2015; Kondo and Kawai 2017)。第10次調査において、

コンスウエムヘブ墓前庭部の発掘調査が進んだことにより、容易にアクセスが可能となり、本格的な保存修復作業を実施する準備が完了した。更に第10次調査では、ウセルハト墓の前庭部東側から新たにコンスウ墓(KHT03)を発見した(近藤他2018)。

これまでの調査成果を受け、第11次調査では、主に2つの作業を行った。ひとつはウセルハト墓上部の発掘調査である。今後のウセルハト墓内部の発掘調査、保存修復作業に備え、墓にかかる荷重を減らすために、ウセルハト墓上部に堆積する土砂の発掘調査を実施した。もうひとつは、コンスウエムヘブ墓における保存修復作業、岩盤補強作業であり、今期調査から本格的な保存修復作業を開始した⁵⁾。

本稿では、こうした経緯と調査目的のもと、2017年度にルクソール西岸アル=コーカ地区の第47号墓およびその周辺において実施した第11次調査について報告を行う⁶⁾。

2. ウセルハト墓およびコンスウエムヘブ墓の調査

今期調査では、ウセルハト墓の内部の発掘調査、保存修復作業に備え、墓の上部に堆積する土砂を発掘し、墓内部にかかる荷重を減少させることを目的とした。今回の発掘では、主にウセルハト墓の前室南側の上部の発掘調査を実施した(図3)。

ウセルハト墓上部には、石灰岩チップ層が6mほど堆積している。この石灰岩チップ層は大きく2つに分けることができた。石灰岩チップ層の上層には、新王国時代第19王朝から第20王朝に年代付けられる土器が含まれており、その他に、墓の造営に使用されたと考えられるプラスターの入った土器、植物製の刷毛などが発見されている。こうしたところから、上層の石灰岩チップ層は、周辺の第19王朝から第20王朝の墓を掘削した際の排土であると考えられる。

また、石灰岩チップ層の下層からも、墓の造営に関連する遺物が出土しており、同じく墓を掘削した際の排土であると考えられる。出土した遺物は、掘削の際の目印と考えられる赤い線のある石灰岩片や木槌、青や緑色の顔料を含む土器片(おそらくパレットとして使用)、プラスターの入った土器などである。また、出土した土器群が第18王朝後期に年代付けられることから、石灰岩チップ層が周辺の第18王朝後期の岩窟墓の掘削排土である可能性が考えられる。

また、発掘調査の結果、ウセルハト墓前室南側の上部から、石灰岩片で作られた壁の一部が発見された(写真1, 2)。前述の石灰岩チップ層は、この壁を覆うように堆積していたことから、少なくともこの壁自体は、第18王朝後期よりも前に年代付けることができる。今後、この壁周辺の発掘調査を進め、遺構の性格を明らかにしていく計画である。

更に、今期調査では、コンスウエムヘブ墓の保存修復に先立ち、前室の発掘調査も実施した。前室内部には、外部から流れ込んだ土砂が堆積しており、出土遺物も第3中間期に年代付けられるカルトナーージュ片、シャブティ片などが主であった。その他、古代に崩落したコンスウエムヘブ墓の壁画の一部も発見された。これらは今後の保存修復作業によって、適切な位置に戻される計画である。

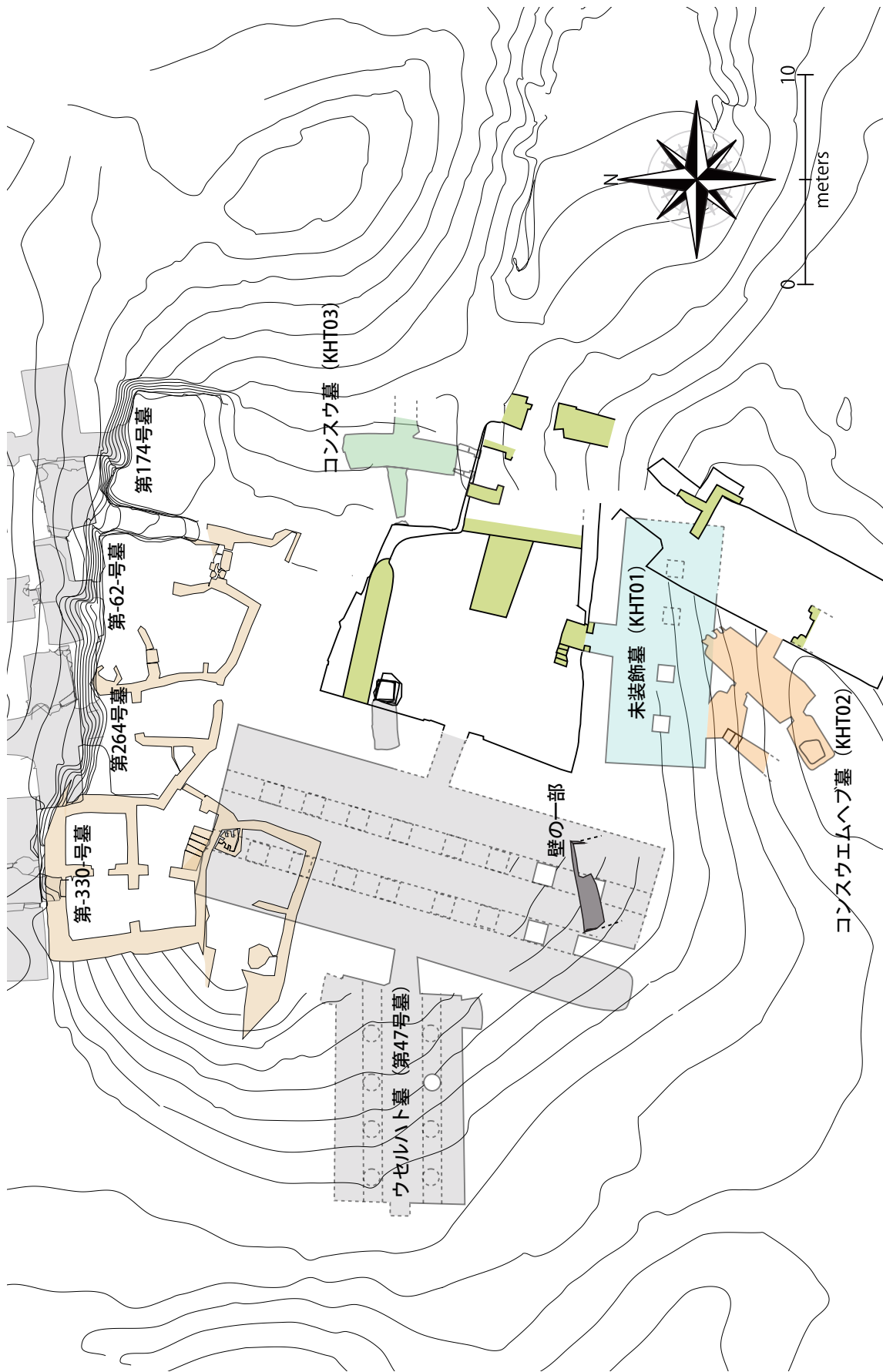


図3 ウセルハト墓およびその周辺地図 (第11次調査終了時)
Fig.3 Map of tomb of Userhat and its vicinity



写真1 ウセルハト墓の前室上部、今期発掘調査終了時（北東から）
 Pl.1 The area above the transverse hall of tomb of Userhat (TT47) after clearance, looking from northeast



写真2 ウセルハト墓の前室上部、今期発掘調査終了時（北から）
 Pl.2 The area above the transverse hall of tomb of Userhat (TT47) after clearance, looking from north

3. 出土遺物

以下では、今期調査において、ウセルハト墓上部およびコンスウエムヘブ墓内部の発掘調査で取り上げた遺物のうち、主要なものについて報告する。

(1) 木棺・カルトナージュ

寸法：高さ 8.1cm、幅 19.2cm、厚さ 3.5cm (図 4.1、写真 3)

高さ 10.1cm、幅 13.1cm (図 4.2)

高さ 6.9cm、幅 5.2cm (図 4.3、写真 4)

高さ 6.9cm、幅 10.1cm (図 4.4)

時代：第 3 中間期 (図 4.1-4)

今期調査では、ウセルハト墓上部およびコンスウエムヘブ墓前室内部から木棺片、カルトナージュ片が発見された。装飾などから第 3 中間期に年代付けられると考えられ、周辺の墓に由来すると考えられる。

木製の手は、もともと木棺に付属していたものである (図 4.1、写真 3)。類似した手首の部分に装飾のある木製の手は、アル=コーカ地区の第 253 号墓からも出土しており、第 21 王朝から第 22 王朝初期に年代付けられている (Strudwick 1996: pl.56.253A.123, 253A.055, 57)⁷⁾。カルトナージュ片は、女神の羽、シェン・リング、バーで装飾されたものや (図 4.2)、ウジャトの眼が装飾されたもの (図 4.3、写真 4)、棺の鬘の部分のもの (図 4.4) などがある。いずれも黄色の背景に赤、青、緑、黒で装飾されており、こうした装飾は第 21 王朝に年代付けられる (Schreiber 2008: 55)⁸⁾。

(2) ファイアンス製アミュレット

寸法：高さ 1.8cm、幅 2.0cm (図 4.5)

時代：第 3 中間期 (図 4.5)

今期調査では、ファイアンス製のアミュレットが出土した。濃い青地に、細部が黒で表現されたウジャトの眼などが出土している (図 4.5)。類似したウジャトの眼のアミュレットは第 3 中間期に年代付けられている (Müller-Winkler 1987: 170, S145)。

(3) ウシャブティ

寸法：高さ 5.5cm、幅 1.7cm、厚さ 1.3cm (図 4.6、写真 5)

高さ 7.5cm、幅 2.9cm、厚さ 2.8cm (図 4.7)

高さ 7.4cm、幅 4.6cm、厚さ 3.4cm (図 4.8)

時代：第 3 中間期 (図 4.6-7、写真 5)

今期調査でも、ファイアンス製、テラコッタ製と土製のシャブティが出土した。類例などから第 3 中間期に年代付けられると考えられる。

ファイアンス製シャブティ (図 4.6、写真 5) は、アル=コーカ地区の第 253 号墓、254 号墓、294 号墓の前庭部から類例が出土している (Strudwick 1996: 106, pl.37.ct.169a, c, d, 38.ct.169b, e)⁹⁾。テラコッタ製のシャブティはもともと腕を前で交差し、鋏を持っていたと考えられる (図 4.7)。類例は、同じくアル=コーカ地区の第 253 号墓、294 号墓から知られている (Strudwick 1996: 115, 119, pl.36.ct.294.442, ct.253.118b)¹⁰⁾。土製のシャブティ (図 4.8) は、青緑の装飾があり、黒でおそらく被葬者の名前である ... *n Mwt* ... 「... エンムウト」の文字が見られる。類似した土製の青緑の装飾のシャブティは、アル=コーカ地区の第 32 号墓から、第 21 王朝の例が知られている (Schreiber 2008: pl.LIII.3.1.4.3)¹¹⁾。



図4 主要出土遺物 (1)
Fig.4 Major finds (1)

(4) 葬送コーン

① *Wsr-h3t* 「ウセルハト」の葬送コーン

寸法：高さ 7.4cm、幅 9.5cm、長さ 21.2cm (図 5.1)

高さ 9.6cm、幅 9.7cm、長さ 9.3cm (図 5.2、写真 6)

時代：新王国時代アメンヘテプ 3 世 (図 5.1, 2、写真 6)

今期調査でもウセルハトの葬送コーンが出土した (図 5.1, 2、写真 6; Davies and Macadam 1957: #406)。形状は末端がややすぼむ直方体であり、文字が押印されている先端には赤いスリップが施されている。

② *Nb-Imn* 「ネブアメン」の葬送コーン

寸法：高さ 7.8cm、幅 8.5cm、厚さ 16.7cm (図 5.3、写真 7)

時代：新王国時代 (図 5.3、写真 7)

ネブアメンの葬送コーンが出土した (図 5.3、写真 7; Davies and Macadam 1957: #553)。ネブアメンは *sš-nswt, imy-r rwyt, sš wdhw imy-r šnwt* 「王の書記、法廷の長、供物台の書記、2つの穀倉庫の監督官」の称号を持つ人物で、年代と墓の位置は不明である。これまで第3次、第8次、第9次調査でも出土している (近藤他 2011: 55; 2016: 124, 図 6.10; 2017: 56, 図 9.2)。

(5) 木槌

寸法：高さ 7.5cm、幅 7.4cm、厚さ 6.7cm (図 6.1)

時代：新王国時代 (図 6.1)

ウセルハト墓の前室上部の石灰岩チップ層から、木槌の破片が出土した (図 6.1)。今期調査では、計2点の破片が出土している。類似した木槌は、セドメント (Franzmeier 2017: 1662, no.2033/Wz/001) などから出土している。

(6) 封泥

寸法：高さ 14.5cm、幅 14.7cm、厚さ 12.2cm (図 6.2、写真 8)

時代：新王国時代 (図 6.2、写真 8)

アンフォラの封泥がウセルハト墓の前室上部の石灰岩チップ層上層から出土した (図 6.2、写真 8)。封泥には、*rnn.wtt [nb.t]-k3 nfr df3* 「レネヌト、食物の女主人、良き食物の供給者」の文字が押印されている。類似した封泥は、アマルナなどに見られる (Seyfried (ed.) 2012: cat.no.151, right)。

(7) カノボス壺

寸法：高さ 3.6cm、最大径 18.6cm (図 7.1、写真 9)

時代：新王国時代第18王朝中期 (図 7.1、写真 9)

土器を白く塗り、黒で文字を描いたカノボス壺が出土した (図 7.1、写真 9)。胎土は、ウィーン・システムにおける Marl A2 胎土である。内部には、黒の樹脂が付着している。文字は壺の胴部に縦2行で、以下のように記されている。

一行目：... *hp.y z3* ... 「... ハピ神、保護 ...」

二行目：... *hm-ntrntj-thj ? Hr...* 「... 攻撃の神 (?) の神官、ホル (?) ...」

類似した Marl A2 胎土、白地に黒の文字の書かれたカノボス壺は、アル=コーカ地区から知られており、第18王朝中期に年代付けられている (Schreiber 2008: pl.XXXIV.1.6.50-53)。

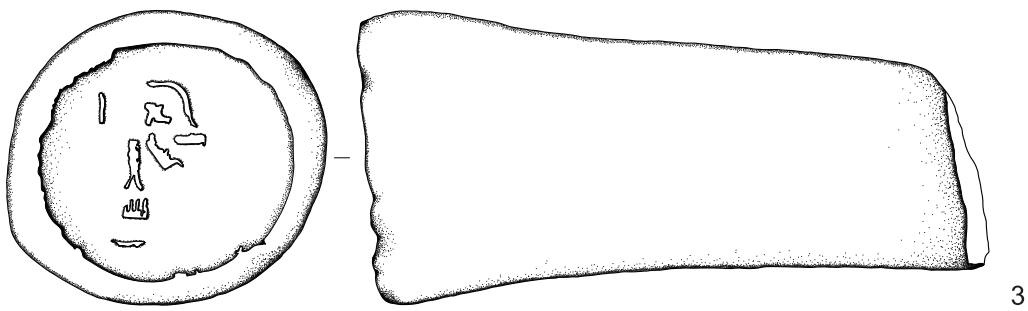
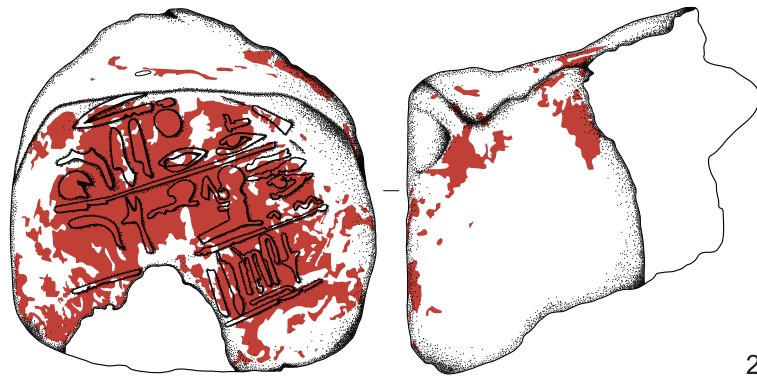
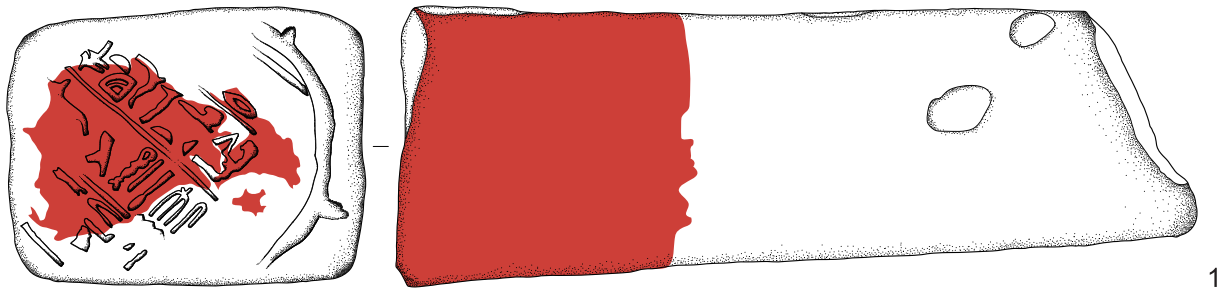


図5 主要出土遺物 (2)
Fig.5 Major finds (2)

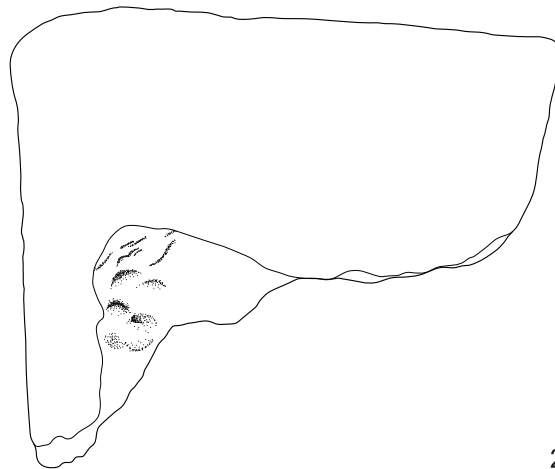
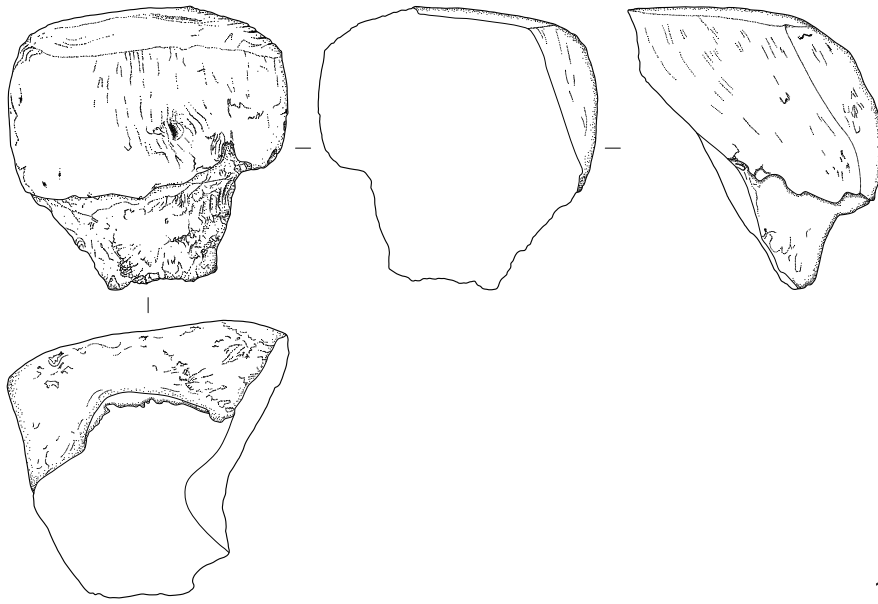


図 6 主要出土遺物 (3)
Fig.6 Major finds (3)



写真3 木棺片
Pl.3 Fragment of wooden coffin



写真4 カルトナーージュ棺片
Pl.4 Fragment of cartonnage coffin



写真5 ファイアンス製ウシャブティ
Pl.5 Faience shabti



写真6 ウセルハトの葬送コーン
Pl.6 Funerary cone of *Wsr-hꜛt*



写真7 ネブアメンの葬送コーン
Pl.7 Funerary cone of *Nb-Imn*



写真8 封泥
Pl.8 Mud jar sealing

(8) 土器¹²⁾

今期調査では、主にウセルハト墓の前室上部に堆積した石灰岩チップ層から土器が発見された。この石灰岩チップ層は、古代における墓掘削の排土と考えられ、大きく2つの層に分けることができる。

石灰岩チップ層の上層からは、新王国時代第19王朝から第20王朝に年代付けられる皿形土器(図7.2)¹³⁾、波状頸部の青色彩文土器(図7.3)、赤色のビール壺(図7.4)¹⁴⁾などが出土している。皿形土器(図7.2)は、口縁に赤色の装飾が施されており、底部には焼成後に孔が開けられている。また、内外に焼成の痕が見られる。孔や焼成の痕跡から、この皿形土器は何らかの儀式に使用されたと考えられる。また、波状頸部の土器(図7.3)は、埋葬儀式に使用されたとされている(Nelson 2006: 122)。赤色のビール壺(図7.4)には、供物として供えられたと考えられる泥が入っている。このように、石灰岩チップ層の上層から発見された土器群は、付近における儀式に使用された土器群と考えられ、おそらくウセルハト墓周辺の墓に由来するものと考えられる。

石灰岩チップ層の下層からは、皿形土器(図7.5)¹⁵⁾、赤色のビール壺(図7.6)¹⁶⁾、赤色の短頸壺形土器(図7.7)¹⁷⁾、白色の高坏形土器(図7.8、写真10)¹⁸⁾などが出土している。類例などから、第18王朝後期に年代付けられる。皿形土器には、焼成後に孔が開けられ、内外に焼成の痕が見られる(図7.5)。また、赤色のビール壺(図7.6)には、内部に内容物である泥がある。赤色の短頸壺形土器にも孔が開けられている(図7.7)¹⁹⁾。白色の高坏形土器(図7.8、写真10)は、内部に焼成の痕跡があり、また類例などから考えると、何らかの儀式に使用されたと考えられる。こうしたところから、石灰岩チップ層の下層から発見された土器も付近における儀式に使用された土器群と考えられる。

4. まとめ

2017年度の第11次調査では、ウセルハト墓上部の発掘調査を行い、今後のウセルハト墓内部の発掘調査、保存修復作業に向けて、墓の上の土砂の加重を減らすことができた。また、発掘調査により、墓の上の土砂が古代における岩窟墓の掘削排土であることが明らかとなった。また、出土遺物の研究から、古代の活動の一端を復元することもできた。更には、第18王朝後期よりも前に年代付けられる壁の存在が明らかとなり、今後、この壁の性格を明らかにすることが課題として挙げられた。コンスウエムヘブ墓では、本格的な保存修復作業、岩盤補強作業を開始し、一定の成果を得た。特に壁画や彫像の補強作業を行い、崩落の危険性が減少したことは大きな成果である。

以上が第11次調査の成果の概要である。来期以降も発掘調査、保存修復作業を継続し、ウセルハト墓(第47号墓)、コンスウエムヘブ墓(KHT02)、コンス墓(KHT03)を中心として、研究を進めていきたい。

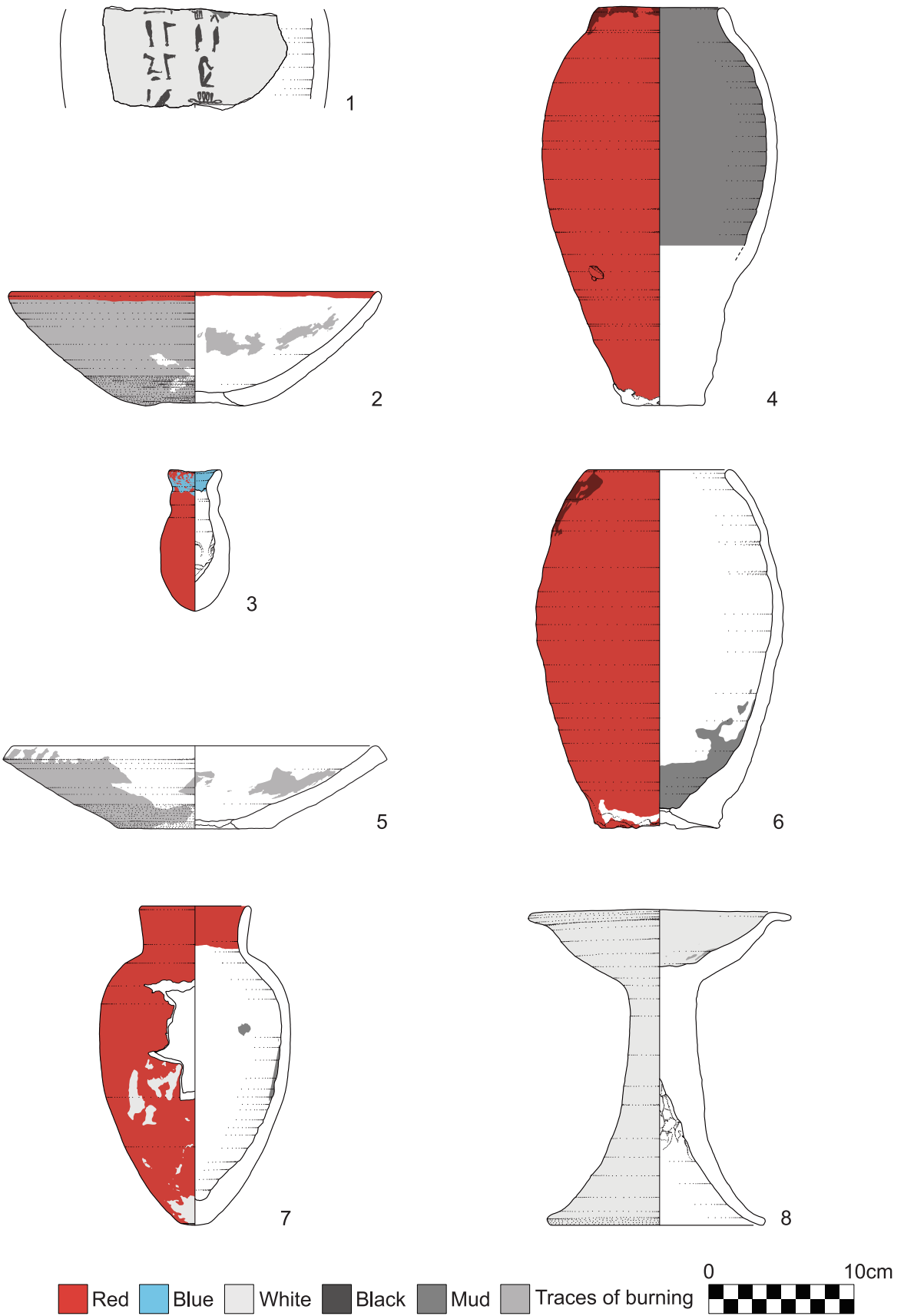


図7 ウセルハト墓の前室上部から出土した土器
 Fig.7 The pottery vessels from the area above the transverse hall of the tomb of Userhat



写真9 カノボス壺
Pl.9 Pottery canopic jar



写真10 白色の高坏形土器
Pl.10 White washed dish on tall stand

謝辞

エジプト現地調査では、エジプト・アラブ共和国考古大臣カリード・アル=アナニー閣下、考古最高評議会事務総長ムスタファ・ワジーリー博士、古代エジプト部部长アイマン・アシュマウィ博士、上エジプト局長モハメド・アブデル・バディア氏、外国調査隊管轄事務局長モハメド・イスマイル博士、上エジプト総局長ムハマド・アブデル・アジーズ博士、ルクソール西岸総局長ファティ・ヤシーン氏、ルクソール西岸クルナ査察局長バハ・ガビル氏、ルクソール西岸中部地区長エズ・アル=ディン・カマル・ヌビ氏、ルクソール西岸主任査察官アハメド・バグダディ氏、査察官アラー・フセイン・マハムード氏、保存修復部上エジプト局長アブデル・ナーセル氏、ルクソール西岸保存修復局長アハメド・アリ氏、保存修復部ルクソール西岸中部地区長ファティマ・カイリィ氏、修復師アスマ・サイード氏、マハムード・ハッサン・アル=アザブ氏をはじめとする方々に多大なご協力を頂いた（肩書きは調査当時のもの）。

また、図版などの作成には早稲田大学エジプト学研究所のアブデルアール・アハメド・マハムード・ムハマド、石崎野々花、菅沼奏美の協力を得た。ここに記して感謝の意を表する。

なお、本調査は日本学術振興会科学研究費・基盤研究（A）「エジプト、ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究」（研究代表者：近藤二郎）の助成を受けて実施された。

註

- 1) マルカタ南遺跡のコム・アル=サマク（魚の丘）における調査に関しては主に以下を参照（古代エジプト調査委員会編 1983）。
- 2) マルカタ王宮の調査は主に以下を参照（早稲田大学古代エジプト建築調査隊編 1993）。ルクソール西岸岩窟墓の一連の調査は主に以下を参照（早稲田大学エジプト学研究所編 2002, 2003, 2007）。王家の谷・アメンヘテプ3世王墓における調査は主に以下を参照（Kondo 1992, 1995; Yoshimura and Kondo 1995; Yoshimura and Kondo (eds.) 2004; Yoshimura et al. 2005; 吉村 1993; 吉村、近藤 1994, 2000; 河合他 2001; 吉村他 2005, 2013; アメンヘテプ III 世王墓報告書刊行委員会編 2008, 2011）。
- 3) 第47号墓の研究史、研究上の問題点、アメンヘテプ3世時代の大型岩窟墓の問題について詳しくは以下を参照（近藤 1994）。その他、アメンヘテプ3世時代の大型岩窟墓については D. アイクナー（Eigner）の論考を参照（Eigner 1983）。
- 4) これまでの報告としては、ラインドによるウセルハトの葬送コーンの報告（Rhind 1862: 137）、ハワード・カーターによる第47号墓の構造に関する記述やウセルハトの葬送コーン、王妃ティイのレリーフ写真などの報告（Carter

- 1903: 177-178, Pl.II)、A.E.P. ウェイゴール (Weigall) の記述 (Weigall 1908: 125) などが挙げられる。また、ベルギーのブリュッセル王立美術史博物館には第47号墓由来の王妃ティイのレリーフが収蔵されている (van de Walle et al. 1980: 18-20, Figs.3, 4)。
- 5) コンソウエムヘブ墓における保存修復作業、岩盤補強作業については、別稿で報告する予定である。
 - 6) 調査は2017年12月23日から2018年1月15日、2018年3月3日から3月13日まで実施された。調査の参加者は以下の通りである。考古班：近藤二郎、菊地敬夫、河合 望、高橋寿光、米山由夏、アブデルアール・アハメド・マハムード・ムハンマド、石崎野々花、菅沼奏美、建築班：柏木裕之、保存修復班：前川佳文、ダニエラ・マリア・マーフィー、岩盤工学班：ホセ・イグナシオ・フォカデル・ウトリッラ、ルイス・マーティン・ディアス、渉外：吉村龍人、ムハンマド・アシュリー。
 - 7) その他の類例は、大英博物館所蔵の木棺にあり、同じく第21王朝に年代付けられている (Taylor 2001: pl.51.3 (EA24797))。
 - 8) 類似したモチーフで、黄色の背景に多彩色で装飾された棺の蓋が、大英博物館に所蔵されており、第21王朝に年代付けられている (Taylor 2001: pl.51.2 (EA24794), 3 (EA24797))。
 - 9) テラコッタ製の類似したシャブティは、ルクソール地域において第3中間期によく見られるものである (Aston 1994: 33; Schreiber 2008: 58-59)。
 - 10) このような形態のシャブティは、おそらく監督官のシャブティであると考えられる (Strudwick 1996: 119)。
 - 11) 同じように土製で緑の装飾が施されたシャブティが第21王朝に年代付けられている (Schneider 1977: no.4.5.1.11)。
 - 12) 土器の胎土に関しては10倍のルーペによる観察を行い、エジプトの胎土分類システムのウィーン・システムを参照し、記述を行った (Nordström and Bourriau 1993; Bourriau et al. 2000: 130-132)。胎土の色調に関しては、マンセルのカラーチャートを用いて記述を行った。土器の器形分類に関しては、最大径と高さの関係などの数値に基づいた器形分類を参考に、エジプトの土器研究で一般的に用いられている英語名称を日本語に訳し、名称を付した (Aston 1998: 41-51)。
 - 13) 類例は王家の谷、17号墓および47号墓から出土している (Aston 2014: pls.7.78, 26.244, 27.253)。
 - 14) 類例は同じく王家の谷、17号墓から出土している (Aston 2014: pl.11.110)。
 - 15) 類例はマルカタ王宮から出土している (Hope 1989: fig.1.k)。
 - 16) 同じく類例はマルカタ王宮から出土している (Hope 1989: fig.2.f)。
 - 17) 類例はマルカタ王宮 (Hope 1989: fig.3.f) とアマルナ王宮 (Rose 2007: no.414) から出土している。
 - 18) 類例はアマルナ王宮 (Rose 2007: nos.37, 38) に見られる。
 - 19) 特に赤色の土器の焼成後に開けられた孔については、*sd dšr.wt*「赤色の土器を割る」儀式との関連が考えられる。「赤色の土器を割る」儀式については、以下を参照 (van Dijk 1993: 173-188; Ritner 1993; Budka 2014)。

参考文献

Aston, D.A.

1994 "The Shabti Box: A Typological Study", *Oudheidkundige Mededelingen uit het Rijksmuseum van Oudheden te Leiden* 74, p.33.

1998 *Die Keramik des Grabungsplatzes Q I. Teil 1. Corpus of Fabrics, Wares and Shapes*, Mainz am Rhein.

2014 *Pottery Recovered Near the Tombs of Seti I KV 17 and Siptah KV 47 in the Valley of the Kings*, Basel.

Bourriau, J., Nicholson, P.T and Rose, P.

2000 "Pottery", in Nicholson, P.T. and Shaw, I. (eds.), *Ancient Egyptian Materials and Technology*, Cambridge, pp.121-147.

Budka, J.

2014 "Egyptian Impact on Pot-breaking Ceremonies at el-Kurru? A Re-examination", in Anderson, J.R. and Welsby, D.W. (eds.), *The Fourth Cataract and beyond: Proceedings of the 12th International Conference for Nubian Studies*, Leuven, Paris and Walpole, pp.641-654.

Carter, H.

1903 "Report of work done in upper Egypt (1902-1903)", *Annales du Service des Antiquités de l'Égypte* 4, pp.171-180.

Davies, N. de G. and Macadam, M.F.L.

1957 *A Corpus of Inscribed Egyptian Funerary Cones*, Oxford.

van Dijk, J.

1993 *The New Kingdom Necropolis of Memphis: Historical and Iconographical Studies*, Groningen.

- Eigner, D.
1983 “Das Thebanische Grab des Amenhotep, Wesir von Unterägypten: Die Architektur”, *Mitteilungen der Deutschen Archäologischen Instituts Abteilung Kairo* 39, pp.39-50.
- Engelbach, R.
1924 *A Supplement to the Topographical Catalogue of the Private Tombs of Thebes*, Cairo.
- Franzmeier, H.
2017 *Die Gräberfelder von Sedment im Neuen Reich (2 vols.): Materielle und kulturelle Variation im Bestattungswesen des ägyptischen Neuen Reiches*, Leiden.
- Hope, C.
1989 *Pottery of the Egyptian New Kingdom: Three Studies*, Burwood.
- Kondo, J.
1992 “A Preliminary Report on the Re-clearance of the Tomb of Amenophis III”, in Reeves, C.N. (ed.), *After Tutankhamun: Research and Excavation in the Royal Necropolis at Thebes*, London and New York, pp.41-54.
1995 “The Re-clearance of Tombs WV 22 and WV A in the Western Valley of the Kings”, in Wilkinson, R.H. (ed.), *Valley of the Sun Kings: New Explorations in the Tombs of Pharaohs*, Tucson, pp.25-33.
- Kondo, J. and Kawai, N.
2017 “Discovered, lost, rediscovered: Userhat and Khonsuemheb”, *Egyptian Archaeology* 50, pp.22-26.
- Müller-Winkler, C.
1987 *Die Ägyptischen Objekt-Amulette*, Göttingen.
- Nelson, M.
2006 “La tombe d’une nourrice royale du début de la XVIIIème dynastie découverte au Ramesseum: Concession funéraire ST1.Sa05/pu01”, *Memnonia* XVII, pp. 115-129.
- Nordström, H-Å and Bourriau, J.
1993 “Ceramic Technology: Clays and Fabrics”, in Arnold, D. and Bourriau, J. (eds.), *An Introduction to Ancient Egyptian Pottery*, Mainz am Rhein, pp.143-190.
- Rhind, A.H.
1862 *Thebes: Its Tombs and Their Tenants, Ancient and Present: A Record of Excavations in the Necropolis*, London.
- Ritner, R.K.
1993 *The Mechanics of Ancient Egyptian Magical Practice*, Chicago.
- Rose, P.
2007 *The Eighteenth Dynasty Pottery Corpus from Amarna*, London.
- Schneider, H.D.
1977 *Shabtis: An Introduction To The History of Ancient Egyptian Funerary Statuettes with A Catalogue of the Collection of Shabtis in the National Museum of Antiquities of Leiden*, 3 vols., Leiden.
- Schreiber, G.
2008 *The Mortuary Monument of Djehutymes II: Finds from the New Kingdom to the Twenty-sixth Dynasty*, Budapest.
- Seyfried, F. (ed.),
2012 *In the Light of Amarna: 100 Years of the Nefertiti Discovery*, Berlin.
- Strudwick, N. and Strudwick, H.
1996 *The Tombs of Amenhotep, Khnummose, and Amenmose at Thebes (Nos. 294, 253, and 254)*, Oxford.
- Survey of Egypt
1924 *The Theban Necropolis, Scale 1:1,000*, Cairo.
- Taylor, J.H.
2001 “Patterns of Colouring on Ancient Egyptian Coffins from the New Kingdom to the Twenty-Sixth Dynasty: an Overview”, in Davies, W.V. (ed.), *Colour and Painting in Ancient Egypt*, London, pp.164-181.
- van de Walle, B., Limme, L. and De Meulenaere, H.
1980 *La collection égyptienne, Les étapes marquantes de son développement*, Bruxelles.
- Weigall, A.E.P.
1908 “Report on the Tombs of Shékh abd' el Gürneh and el Assasîf”, *Annales du Service des Antiquités de l'Égypte* 9, pp.118-136.

Yoshimura, S., Capriotti, G., Kawai, N. and Nishisaka, A.

- 2005 “A Preliminary Report on the Conservation Project of the Wall Paintings in the Royal Tomb of Amenophis III (KV 22) in the Western Valley of the Kings: 2001-2004 Seasons”, *Memnonia* XV, pp.203-212.

Yoshimura, S. and Kondo, J.

- 1995 “Excavation at the tomb of Amenophis III”, *Egyptian Archaeology* 7, pp.17-18.

Yoshimura, S. and Kondo, J. (eds.)

- 2004 *Conservation of the Wall Paintings in the Royal Tomb of Amenophis III -First and Second Phases Report-*, Tokyo.

アメンヘテプ III 世王墓報告書刊行委員会編

- 2008 『エジプト王家の谷・西谷学術調査報告書 [I] アメンヘテプ III 世王墓 (KV22) を中心として』、中央公論美術出版。

- 2011 『エジプト王家の谷・西谷学術調査報告書 [II] KVA とアメンヘテプ III 世王墓 (KV22) に隣接する地域』、中央公論美術出版。

河合 望、吉村作治、近藤二郎、ジョルジョ・カプリオッティ

- 2001 「アメンヘテプ III 世王墓保存修復プロジェクト予備調査概報」、『エジプト学研究』第 9 号、早稲田大学エジプト学会、pp.39-45.

古代エジプト調査委員会編

- 1983 『マルカタ南 [I] 一魚の丘<考古編・建築編>』、早稲田大学出版部。

近藤二郎

- 1994 「テーベ私人墓第 47 号」、『エジプト学研究』第 2 号、早稲田大学エジプト学会、pp.50-60.

近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、西坂朗子、高橋寿光

- 2009 「第 1 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第 15 号、早稲田大学エジプト学会、pp.39-70.

- 2010 「第 2 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第 16 号、早稲田大学エジプト学会、pp.47-77.

- 2011 「第 3 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第 17 号、早稲田大学エジプト学会、pp.45-63.

- 2012 「第 4 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第 18 号、早稲田大学エジプト学会、pp.5-20.

近藤二郎、吉村作治、柏木裕之、河合 望、高橋寿光

- 2013 「第 5 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第 19 号、早稲田大学エジプト学会、pp.107-120.

- 2014 「第 6 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第 20 号、早稲田大学エジプト学会、pp.43-58.

近藤二郎、吉村作治、河合 望、菊地敬夫、柏木裕之、竹野内恵太、福田莉紗

- 2015 「第 7 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第 21 号、早稲田大学エジプト学会、pp.19-44.

近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、高橋寿光、竹野内恵太、福田莉紗

- 2016 「第 8 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第 22 号、日本エジプト学会、pp.113-148.

近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、高橋寿光、福田莉紗

- 2017 「第 9 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第 23 号、日本エジプト学会、pp.113-148.

近藤二郎、吉村作治、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、高橋寿光、福田莉紗、米山由夏

- 2018 「第 10 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報」、『エジプト学研究』第 24 号、日本エジプト学会、pp.11-35.

坂上和弘、馬場悠男

- 2017 「アル=コーカ地区 TT47 出土の人骨およびミイラの人類的調査 (第 9 次調査)」、『エジプト学研究』第 23 号、日本エジプト学会、pp.99-104.

阿部善也、扇谷依李、日高遥香、中井 泉

2017 「コンスウエムヘブ墓の壁画に使用された彩色顔料の非破壊化学分析」、『エジプト学研究』第 23 号、日本エジプト学会、pp.66-86.

前川佳文

2017 「コンスウエムヘブ墓壁画の保存修復に向けた事前調査報告」、『エジプト学研究』第 23 号、日本エジプト学会、pp.87-98.

吉村作治

1993 「早稲田大学古代エジプト調査隊調査報告 (III)」、『オリエント』第 36 巻第 1 号、日本オリエント学会、pp.159-177.

吉村作治、近藤二郎

1994 「アメンヘテプ 3 世王墓の調査について エジプト・ルクソール西岸、王家の谷西谷調査報告」、『人間科学研究』第 7 巻第 1 号、早稲田大学人間科学部、pp.187-199.

2000 「王家の谷・西谷調査報告 - 1992 年 8 月～2000 年 1 月 -」、『エジプト学研究』第 8 号、早稲田大学エジプト学会、pp.57-64.

吉村作治、近藤二郎、河合 望、西坂朗子、瀬戸邦弘、高橋寿光、中右恵理子

2005 「アメンヘテプ 3 世王墓保存修復作業概報：2001 年 3 月～2004 年 3 月」、『エジプト学研究』第 13 号、早稲田大学エジプト学会、pp.5-21.

吉村作治、西坂朗子、高橋寿光

2013 「第 3 期アメンヘテプ 3 世王墓壁画保存修復プロジェクト概報」、『エジプト学研究』第 19 号、早稲田大学エジプト学会、pp.43-58.

早稲田大学エジプト学研究所編

2002 『ルクソール西岸岩窟墓〔I〕 - 第 241 号墓と周辺遺構 -』、早稲田大学エジプト学研究所.

2003 『ルクソール西岸岩窟墓〔II〕 - 第 318 号墓と隣接する墓 -』、株式会社アケト.

2007 『ルクソール西岸岩窟墓〔III〕 - 第 333 号墓、A.21 号墓、A.24 号墓、W-4 (Nr.-127-) 号墓 -』、株式会社アケト.

早稲田大学古代エジプト建築調査隊編

1993 『マルカタ王宮の研究 - マルカタ王宮址発掘調査 1985-1988』、中央公論美術出版.

エジプト学研究 第25号

2019年3月31日発行

発行所 / 日本エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 近藤二郎

The Journal of Egyptian Studies No.25

Published date: 31 March 2019

Published by The Japan Society of Egyptologist

1-104, Totsuka-cho, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Japan Society of Egyptologist